

Japanese Research Association of After School Care

日本学童保育学会 第10回研究大会

記念すべき日本学童保育学会の第10回研究大会が大阪で開催されることになりました。学童保育現場の課題に重点をおき、研究者と指導員が共に実践研究を進めることを目標に設立された日本学童保育学会の研究大会には、毎年、地元や全国から多くの指導員さんも参加され、他の学会では見られないようなカジュアルな雰囲気の中、議論が白熱します。

今年の研究大会会場は大阪市立大学ですが、本学所属の会員は私一人であるなか、現地大会実行委員会は、大阪府内の大学教員と指導員で構成し、指導員さん達の大きな実践力に助けられて運営されています。

今年の研究大会は、第10回を記念した国際シンポジウムほか、趣向を凝らした懇親会も企画中です。年々、自由研究発表の数も増加しつづけているのを受けて、会場の教室もたくさん確保して、みなさまのご参加と研究発表を心からお待ちしています。

第10回学童保育学会大会実行委員長
大阪市立大学 小伊藤亜希子

■日 時：2019年6月29日（土）13時30分～

・ 30日（日） 9時30分～

■会 場：大阪市立大学 全学共通教育棟

（〒558-8585 大阪市住吉区杉本 3-3-138）

■日 程

6月29日(土) [第1日目]

13:00から 受付

13:30-17:00

課題研究Ⅰ 日韓学術交流シンポジウム

—学童保育における子ども主体の生活・文化創造と企業による社会貢献活動—

【趣旨】

日本学童保育学会が発足して10年を迎える。この間、日本の学童保育(「放課後児童クラブ」)は急速に発展し、「放課後児童支援員」の資格制度、研修制度も開始され、「放課後児童クラブ」の支援の単位数は3万1000カ所を越えるに至り、施設条件や実践のあり方の研究がますます重要になっている。学会では、日本国内の学童保育の実践や政策に目を向けるだけでなく、諸外国の取り組みに学びつつ、今後の取り組みの発展に資する研究を行いたいと考えている。

第3回研究大会に於いて「海外の学童保育に学ぶ」をテーマにシンポジウムを行ったが、諸外国の中でも、韓国の「地域児童センター」をはじめとする放課後施策の新しい展開は、行政・企業・市民参加に於いて目を見張るものがある。子どもの権利条約第31条(遊び・文化・芸術への参加)の視点から見ても、「地域児童センター」の草分け的存在である「ヘソン地域児童センター」では、子どもの自治を重視し、地域に根を張った豊かな生活と文化・芸術活動が展開されており、その内容から学ぶべきものが多い。また韓国では、企業・財団の社会貢献事業として子どもの放課後活動とその実務者・関係者に対する積極的な支援がおこなわれており、CJ財団の取り組みを通して企業が果たすべき社会的役割を考え合いたい。今回のシンポジウムでは韓国の取り組みの当事者を招聘して、その取り組みに学ぶとともに、子どもの放課後と学童保育のあり方を深め合い、今後の継続的な学術交流の契機にしたいと考えている。

【コーディネーター・司会】 増山 均 (早稲田大学 名誉教授)

【シンポジスト】

① キム・ミア (金 美我・ヘソン地域児童センター 所長)

「子どもと創る豊かな生活・文化—ヘソン地域児童センターのとりくみ」

② チョン・ビョンホ (鄭 炳浩・漢陽大学文化人類学科 教授)

「韓国の共同育児運動と地域児童センターの課題」

③ ミン・ソンヨン (CJ 財団事務部長)

「子どもの放課後生活と企業の社会貢献活動」

④ 齋藤 史夫 (東京家政学院大学 准教授)

「韓国の実践から学ぶもの(日韓の比較を通じて)」

⑤ 松本 歩子（平安女学院大学 講師）

「海外の取り組みへの注目と学童保育研究の課題」

【通訳・通訳アシスト】

ナム・ウンイ（南 銀伊）（早稲田大学文学研究科博士課程 院生）

オ・ギドン（呉 起東）（東京家政学院大学 准教授）

17：30－20：00 懇親会

■ 懇親会について（申し込み締め切り5月20日）

- ・大会第1日（6月29日）17時30分より、学術総合センター1F：野のはなハウスにて懇親会を行います。
- ・参加をご希望の方は、大会参加申し込みと合わせて別紙「懇親会参加申し込み用紙」にご記入いただいた上、学会事務局までお申し込みください。
- ・懇親会参加費は4000円です。費用は当日にお支払いいただきますよう、お願いいたします。
- ・みなさま、ふるってご参加ください。

6月30日（日） [第2日目]

9：30－12：00 自由研究発表

- ・一つの発表当たりの発表時間は、個人研究（発表20分、討議10分）、共同研究（発表30分、討議15分）を予定しています。
- ・発表希望者は、後述する「自由研究発表申し込み方法」をご覧ください。
- ・分科会は、自由研究発表の申し込みテーマ・数をふまえ、学会事務局にて設定します。

12：20－13：00 総会

13：20－16：00

課題研究Ⅱ インクルーシブな学童保育実践の探求 —困難な養育環境に置かれた子どもたちの問題に視点をあてて—

【趣旨】

昨年度の課題研究Ⅱでは、「インクルーシブ教育と学童保育実践」というテーマで、主に発達障害、知的障害の子どもたちに焦点を当てて、そのような子どもたちが子ども集団の中に包摂されていくような「インクルーシブ保育」の取り組みの課題を具体的な実践報告と研究報告をもとに検討した。

しかし、「特別なニーズ」を持つ子どもたちは障害を持つ子どもだけでない。「虐待的な養育環境に置かれている(きた)子ども」や「外国籍の子どもや母語が日本語ではない子ども」、LGBTの子どもなど、多様な「特別なニーズ」をもつ子どもたちが存在しており、学童保育実践においても、それらの多様な「特別なニーズ」をもつ子どもたちの存在が学童保育の子ども集団の中に「包摂」(inclusion)されていく保育実践の取り組みが求められている。

本年度の課題研究Ⅱでは、「特別なニーズ」をもつ子どもの中でも虐待的な養育環境に置かれてきた子どもに視点を当てて、その理解と支援、そして、「インクルーシブな保育実践」のあり方を探求していきたいと考えている。

近年、4歳や小4の女兒が親からの虐待によって殺される事件が相次ぎ、日本社会に大きな衝撃を与えている。しかし、それらの事件はほんの「氷山の一角」に過ぎないのである。

そして、困難な養育環境に置かれている子どもの問題は学童保育実践をすすめていく上でも避けては通れない問題であり、実際、何らかの家庭の事情や保護者の抱える精神的な問題によって様々な傷つきや葛藤を抱えて学童保育にやってくる子どもたちは少なくない。

ところで、被虐待児がしばしば示す問題事象としては、次のようなものがあげられる。

- ① 安定した愛着関係を築いていくことの困難さ
- ② 際限のない「甘え」とそれを裏切られた時の攻撃、他者を操作するための行動化
- ③ 自分の世界への閉じこもりと白昼夢、ファンタジーの世界への埋没
- ④ 力関係に対する過敏さと力による支配
- ⑤ 家庭内の虐待的関係の「再演」
- ⑥ 「食」やモノ、お金に対する異常なこだわり
- ⑦ 人格状態の非連続性

このような問題を示す子どもに対しては、周囲の子どもたちだけでなく、多くの学童保育の指導員もその子どもへの理解や関わりに戸惑い、対応に苦慮しているのが現状であろう。

本課題研究では、学童保育における具体的な取り組みの報告を受けながら、虐待的な養育環境に置かれている子どもたちに焦点をあてたインクルーシブ保育実践の課題について検討していきたい。

なお、虐待的な養育環境に置かれた子どもへの支援を考えていく際には、学童保育の中での居場所づくりの取り組みだけでなく、その子どもの保護者への支援も必要不可欠であろう。なぜならその保護者が保護者集団やコミュニティから「排除」(exclusion)されていく状況の中では、保護者が我が子に対する不適切な関わりを乗り越えて、親子の愛着関係を修復していくことはほとんど不可能であり、結果として、学童保育における子どもへの支援の取り組みも一層困難になってしまうからである。

したがって、虐待的な養育環境に置かれた子どもの存在か包摂(inclusion)されていく学童保育の集団づくりの取り組みは、必然的に困難な課題をもつ保護者をコミュニティの中に「包摂」していく支援と並行して進めていくことが必要不可欠になってくるのである。

ところで、学童保育における家族支援の問題については、本学会では、2016年度にも課題研究(「家族支援と学童保育 ― その可能性と限界」)の中で取り上げている。

今回の課題研究ではそこでの到達点と課題も視野に入れつつ、しかし、主要には「困難な養育環境に置かれた子どもに対する保育実践」の問題に焦点をあてて検討していきたい。

【司会】 二宮 衆一(和歌山大学 准教授)

【コーディネーター】 楠 凡之(北九州市立大学 教授)

【報告者】

事例報告 1 大阪の学童保育指導員方

テーマ 精神疾患の母親のもとで育てられ、愛着障害を抱える姉妹と保護者への支援

事例報告 2 神奈川の学童保育指導員の方

テーマ 未定

事例報告 3 石川の学童保育指導員の方

テーマ 未定

コメンテーター 楠 凡之(北九州市立大学 教授)

宮崎隆志(北海道大学 教授) (交渉中)

■ 大会参加申し込みについて

- 別紙「申し込み書」に記入のうえ、事前に6頁に記載の学会事務局宛先（e-mail・FAX・郵送）まで申込みください。参加費は、当日お支払いいただきます。おつりのないようご準備ください。
- 大会参加費 会員3,000円、非会員4,000円、学生会員2,000円

■ 自由研究発表申し込み方法（締め切り4月12日）

- 自由研究発表者は、日本学童保育学会会員（入会申請中も可）であることが要件となります。現在会員でない方で自由研究発表を希望する場合は、発表申し込みとあわせて入会申し込みをしてください。（入会申し込みについては、日本学童保育学会事務局にお問い合わせください。入会案内・規約・申込書等は公式ホームページでも入手できます。）
- 自由研究発表を希望する方は、別紙「自由研究発表申込書」に記入のうえ、4月12日（金）までに6頁記載の学会事務局宛先（e-mail・FAX・郵送）まで申込みください。
- 自由研究発表者には、『発表要旨集』に掲載する原稿を作成・提出いただきます。執筆要領は、後日申し込み代表者にお知らせいたします。
（原稿締め切り予定 2019年5月24日（必着） A4判1頁1,500字程度）

■ 大会参加・自由研究発表のお申込み先

<日本学童保育学会事務局>

〒710-0251

岡山県倉敷市玉島長尾 2772-1 ながおキッ Z 児童クラブ 気付

E-mail : jimukyoku@gakudouhoikugakkai.com

Tel : 080-6248-9933

Fax : 086-522-9933

●学会公式ホームページ  <http://www.gakudouhoikugakkai.com/>

■ 保育のご案内

- ・ 開催期間中、大会参加者の充実した学習を保障するため、預かり保育を行います。
- ・ 預かり保育をご希望の方は、下記の要領をご参照の上、別紙「預かり保育申し込み用紙」にご記入いただき、大会実行委員会宛に FAX または E-mail にてお申し込みください。
- ・ 要領は下記の通りです。
 - 対象：3歳～小学6年生
 - 保育料：500円/日（おやつ代及び保険料を含む；アレルギー等の配慮が必要なお子様の場合は、おやつをご用意ください）
 - 保育時間：6月29日13時15分～17時15分/6月30日9時15分～16時15分
 - 6月30日の昼食はお子様のものご用意いただいた上、保護者同伴でお願いします。
 - 持ち物：水筒、タオル
 - 申し込み用紙〆切：2019年6月20日（木）
 - 申し込み宛先：第10回研究大会実行委員会（下記の宛先をご参照ください）

■ 大会に関するお問合せ／保育に関するお申込み先

<第10回研究大会実行委員会>

〒542-0012

大阪府中央区谷町7丁目2-2-202

（一社）日本学童保育士協会 前田美子 宛

TEL 06-6763-4381

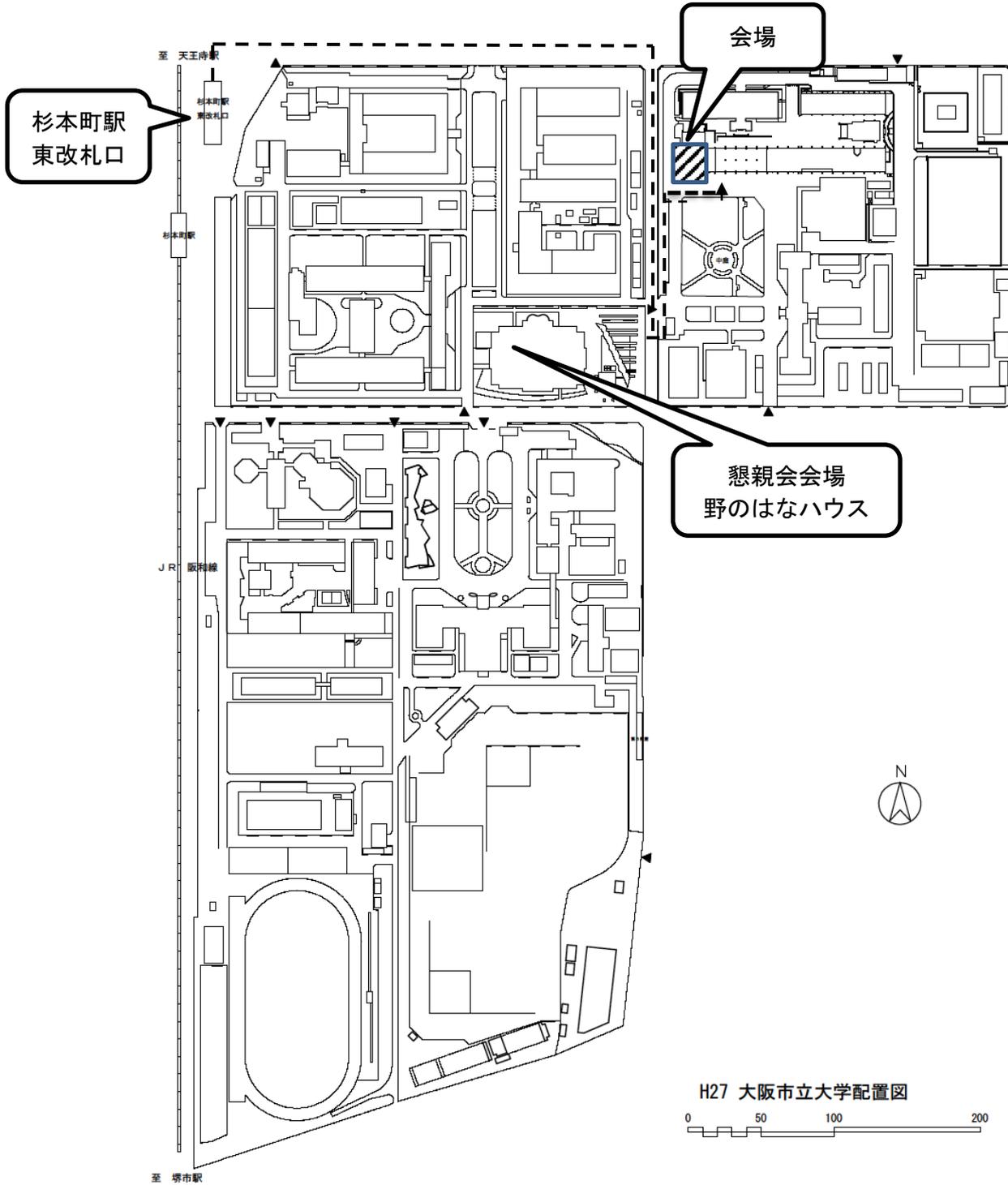
FAX 06-6763-3593

E-mail : maeda@gakudou-osaka.net

■ 周辺宿泊施設について

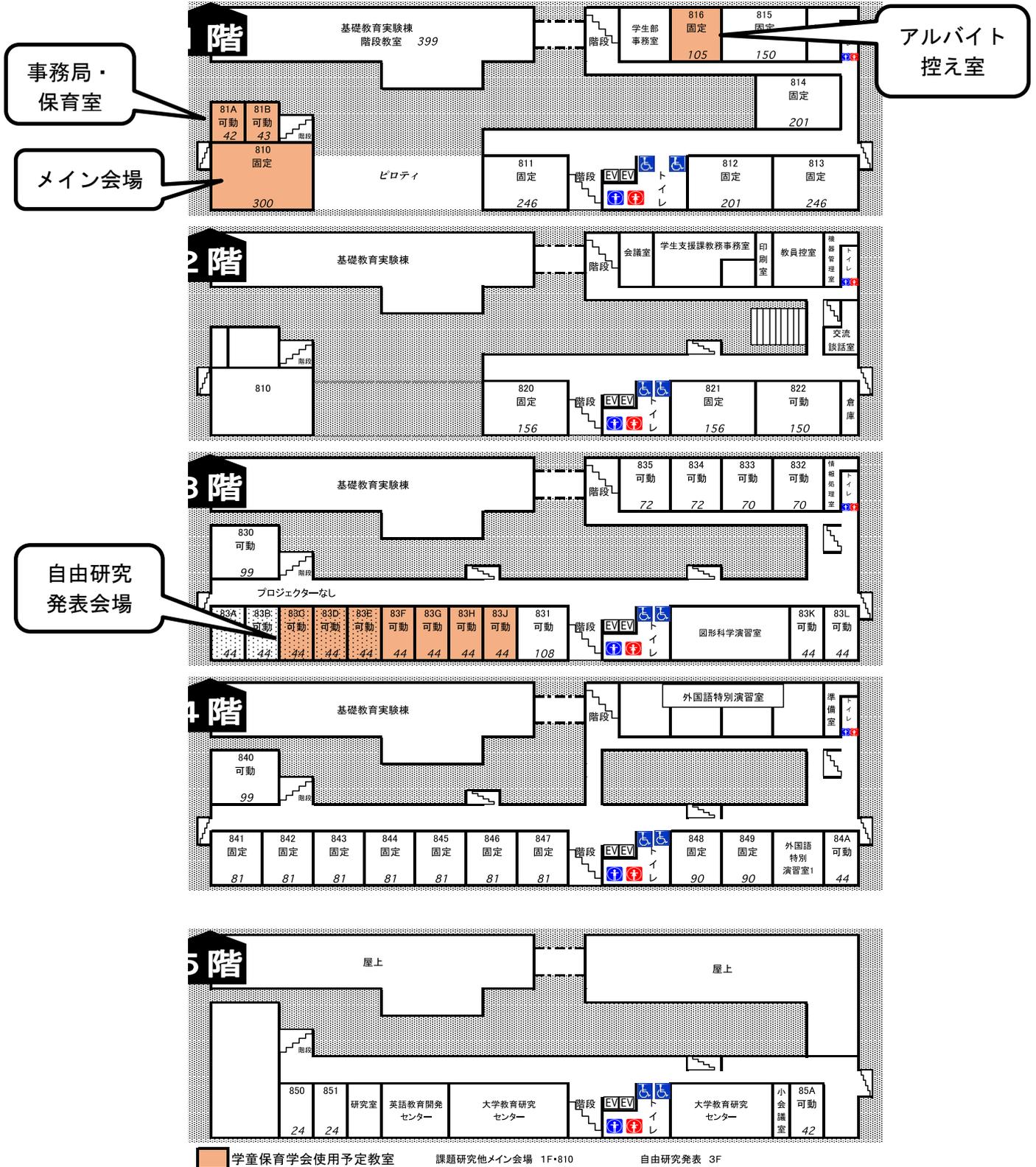
- 大会会場の最寄駅である杉本町駅には、JR 阪和線（普通）で天王寺駅から約20分です。
- 天王寺駅周辺に宿泊施設は多数ございますが、昨今の観光事情から、満室となるホテルが少なからず出ているようです。ご利用の方は、お早めのご予約をお勧めいたします。なお、大阪市内でホテルが取れない場合、堺市方面も、案外近いところがあります。

■ 会場までのアクセス



■学内マップ

全学共通教育棟 教室配置図 及び 予約済教室



■昼食情報

6/30（日）の自由研究発表から総会までは20分しかありませんので、昼食を持参いただくと便利かと思えます。駅前西口の側にコンビニがあります。

大学内の食堂は、懇親会会場でもある「野のはなハウス（土曜日のみ一般営業）」以外は週末には営業していません。

食事のできるお店は、杉本町駅前やキャンパス北側の通り沿いにはいくつかあります。

